

17.10.28(土)

「友達」と一緒に寂しくないね

徳大入院中の子どもにも人形

奉仕団体寄贈

子どもたちの支援活動に取り組む奉仕団体・徳島キワニスクラブ（永廣信治会長）は27日、徳島大病院に入院している児童らに「キワニスドール」と呼ばれる、白い布製の人形を贈った。顔や服装を自由に描くことができ、入院生活の不安や寂しさを和らげる「友達」として役立ててもらおう。

子どもたちの支援活動に取り組む奉仕団体・徳島キワニスクラブ（永廣信治会長）は27日、徳島大病院に入院している児童らに「キワニスドール」と呼ばれる、白い布製の人形を贈った。顔や服装を自由に描くことができ、入院生活の不安や寂しさを和らげる「友達」として役立ててもらおう。

人形は身長約40センチ、重さ約50gで、同クラブ会員が生地に綿を丁寧に詰め、45体を作った。小児病棟で贈呈式



があり、高橋信子副会長ら10人が子どもたちに人形を手渡した。思わぬプレゼントに子どもたちは喜び、早速ペンを人形の顔や服を描くなどして遊んでいた。

徳島大病院長の永廣会長は「キワニスドールは病気の子どもたちに寄り添い、大きな安心感を与えることができる。たくさん製作して他の病院の子どもたちにも贈りたい」と話した。（筈井理）

【上】子どもたちにキワニスドールを贈る徳島キワニスクラブの会員【下】キワニスドールに顔や服を描く子ども



院の小児病棟